

待機児童ゼロってどういふこと？

川崎市議会議員 末永直

川崎市の人口が去る4月24日、150万人を突破した。中原区は全7区中、最も増加数が著しい。これに伴い、保育所等の申請者数も増加している。

先日5月2日に公表された本年4月1日時点での就学前児童数の合計は全市で8万1790人(前年より88人減)。保育所等の申請者数は2万9890人(前年より2314人増)で過

去最大になった。うち利用

児童数は2万6999人(前年より1977人増)。受入枠拡充が要因という。待機児童数はゼロに。厚生労働省の「保育所等利用待機児童数調査要領」に基づく。

ちよつと待てよ。よくよく考えてみたい。待機児童数はゼロ。しかしながら、希望する保育所等に保留となつた方は2891人(前年より337人増)もいる。



末永直 プロフィール

- 国立佐賀大学大学院 教育学研究科卒業
- 自民党参議院議員元秘書
- 昭和58年5月27日 33歳
- 政務活動事務所 千211-0034 中原区井田中ノ町42-10 問合せ先 ☎044-789-5823

何よりこの2891人と数字は0歳から5歳までの全対象年齢を合わせた数字だ。例えば0歳のみで考えると印象は違ってくる。本年の全ての数字はまだ出ていないので、平成28年度の数字を紹介したい。0歳児の就学前児童数は1万4412人だ。これから認可保育所等利用人数1856人、認可外保育施設利用人数(川崎認定保育園・おなかま保育室)624人を引くと、なんと1万1932人という数字が出てくる。これら1万1932人は？疑問が残る。これらの方を置き去りにして「待機

児童数ゼロ」が一人歩きしていないか。国も市もとてもなく大きな問題に蓋をしてはいないか。ところで平成29年度予算案のことも未来費は約89億円も前年度から増えた。このままいけば年々増加の一途を辿るだろう。

川崎市議会では本年度から新しい取組として、「大都市財政制度調査特別委員会」が設けられ、私はその委員になった。国に対して制度変更を含めたこの問題に対する財政措置等を要望して参りたい。

次の日曜14日は母の日だ。保育環境が大変な今だからこそ子育てを頑張ってくれた「お母さん」に感謝する日にしたいものである。